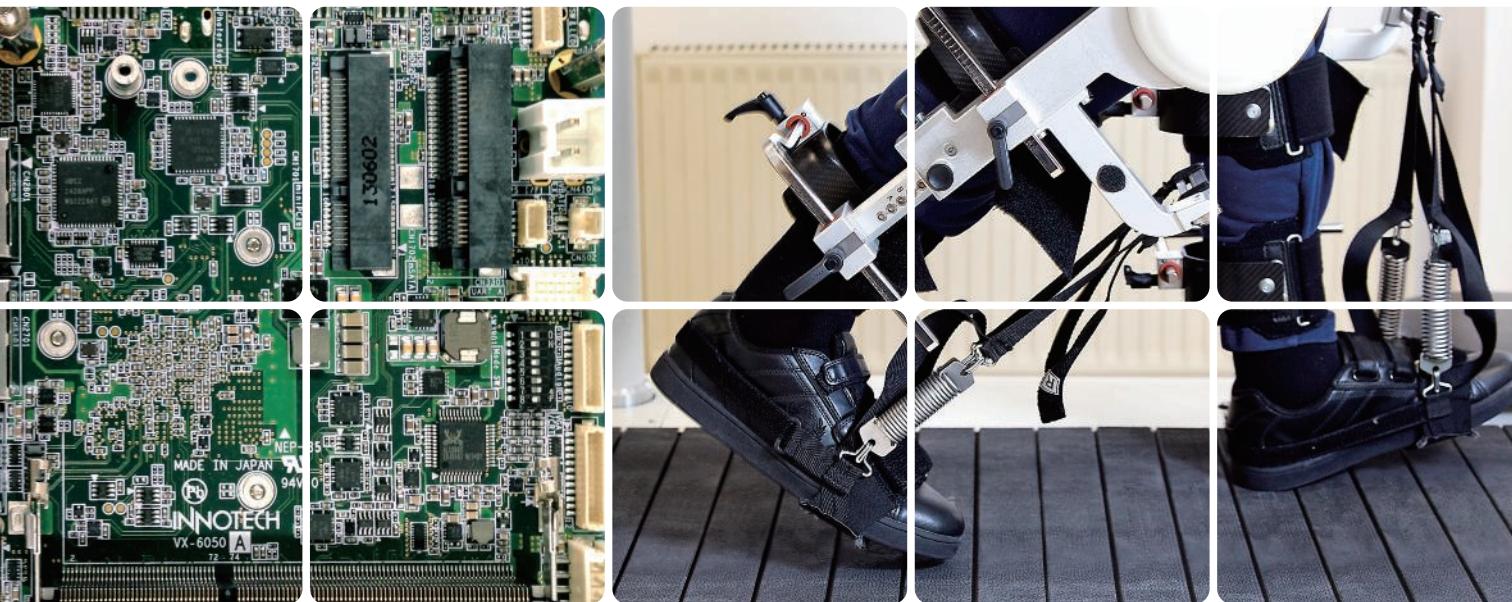




INNOTECH CORPORATION

# BUSINESS REPORT

2014年度 年次報告書 2014.4.1-2015.3.31

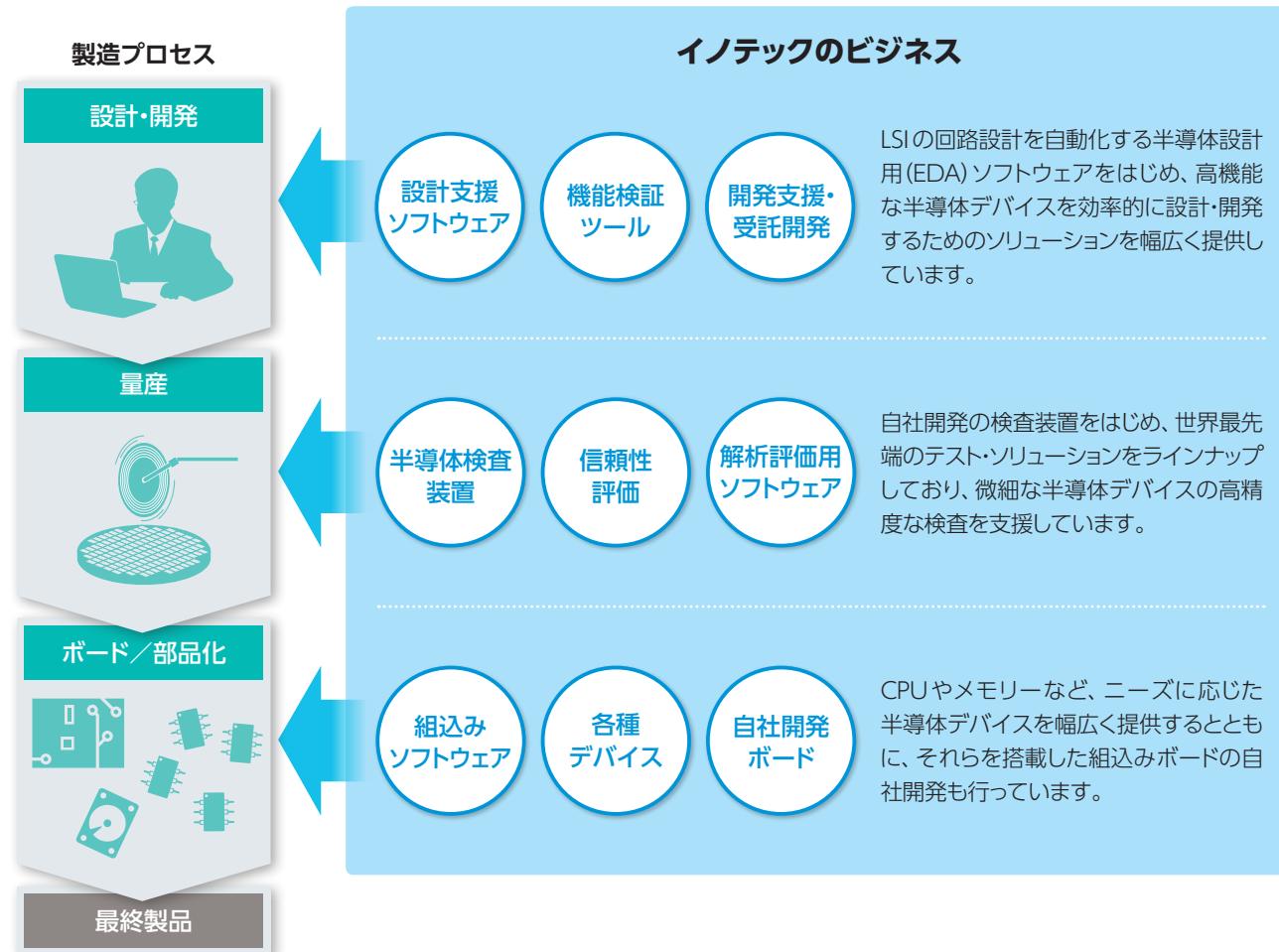


証券コード:9880



## エレクトロニクス産業のあらゆるプロセスをトータルに支援しています。

現在では、私たちの身の回りのあらゆる製品に半導体デバイスが組み込まれ、その“頭脳”として活躍しています。イノテックは、これら半導体デバイスの設計・開発から量産、ボード/部品化、さらには最終製品への導入まで、あらゆる製造プロセスで、ハードウェア/ソフトウェアそしてサービスを含めた多様なソリューションを提供しています。これらのソリューションを通じて、開発/生産効率の向上、高付加価値化、信頼性の保証など、さまざまな面からお客様を支援しています。



## 積極的なM&Aが売上に寄与し、2期連続での増収となりました。

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2015年3月期の国内経済環境は、円安・株高の進行や原油安などの追い風を受け、景気は緩やかな回復基調となりました。イノテックグループが参画する先端エレクトロニクス業界においては、薄型テレビなど民生機器関連は全体的に低調に推移しましたが、スマートフォンやタブレット端末といった通信機器関連は堅調に推移しました。

当社グループの業績につきましては、主力となるEDAソフトウェアやLSI設計/受託開発ビジネスが堅調に推移しました。ガイオ・テクノロジーの機能検証ツールやエンジニアリング・サービスは、自動車メーカーを中心とした底堅い需要に支えられたことにより好調に推移しました。

また、2014年10月に子会社化したSTAr Technologiesも売上に貢献しました。

これらの結果、売上高は264億83百万円(前期比12.3%増)と2期連続での増収となりました。一方損益面では、半導体検査装置の下期減速や新規取扱製品の需要低迷によ



代表取締役会長  
澄田 誠

代表取締役社長  
小野 敏彦

る在庫評価損もあり、営業利益7億22百万円(同34.0%減)、経常利益9億38百万円(同24.4%減)、当期純利益5億53百万円(同4.8%増)となりました。

今後も激しい変化が続く先端エレクトロニクス業界では、高度化・多様化する課題へのトータル・ソリューション・ニーズが高まるものと認識しています。こうした市場の要請に応え、持続的な成長を実現するため、当社グループは2018年度(2019年3月期)を見据えた中期経営計画を新たに策定しました。この計画のもと、グローバル市場を視野に入れた大胆な事業構造改革を推進していきます。株主の皆様には、今後の成長にご期待いただくとともに、変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2015年6月

### ◆ イノテックが目指すもの

- ▶ 半導体ビジネスを通じて、人々の生活を豊かで快適なものにし、「未来社会に貢献」する
- ▶ 創造力を駆使、携わるエレクトロニクス業界の技術の進歩に寄与し、「不可欠な存在」になる
- ▶ 我々の真の事業は「問題を解決すること」であり、顧客に満足いただく労苦を惜しまない
- ▶ 先端技術に挑戦し続ける「パイオニア」になる
- ▶ 創造力を発揮できる会社の仕組みづくりに心血を注ぎ、「誇りの持てる」会社を実現

### ◆ 配当金のご案内

2015年3月期の期末配当につきましては、今後の事業展開などを総合的に勘案し、2015年6月23日開催の第29回定時株主総会で決議いただきました。今後も株主の皆様への安定した利益還元に努めてまいります。

- 1. 配当金.....1株につき7円
- 2. 効力発生日(支払開始日).....2015年6月24日



“中期経営計画のもとに  
大胆な事業構造改革を推進し  
継続的な成長を実現します。”

代表取締役社長 小野 敏彦

Q 中期経営計画を策定したねらいと背景を教えてください。

A 事業環境が大きく変化する現在を“第2の創業期”と捉え、事業構造改革を推進していくためです。

インテックグループは、1987年の創業以来、半導体産業の発展とともに成長を続けてきました。2011年には東証1部への銘柄指定を果たし、その後も事業の多様化と競争力の強化に向けて、M&Aなどの投資を積極的に行ってきました。

半導体産業の技術革新は絶えることなく、近年、そのスピードはさらに加速度を増しています。今後もさらなる環境変化が続くなか、これまでの投資の成果を有効に活用して確かな成長を実現するためには、中長期的な視点に立って変化の方向性を把握し、需要が拡大する分野、当社グループが強みを発揮できる分野に経営資源を集中することが不可欠です。こうした認識のもと、創業から30年の節目を迎える現在を“第2の創業期”と位置付、大胆な事業構造改革を推進するため、2018年度(2019年3月期)を見据えた中期経営計画を策定しました。

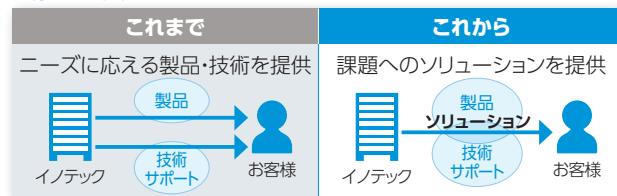
Q 事業構造改革の方向性について教えてください。

A 3つの視点から事業構造を変化させ、市場環境に即してビジネスを強化し、確かな成長につなげます。

当社グループでは、環境変化を3つの視点で捉え、それぞれに対応するために事業構造を変化させていきます。

第1の変化が、ニーズの高度化・多様化に対応するための「製品ビジネスからソリューション・ビジネスへの変化」です。これまでは装置やソフトウェアなどの「製品」と開発支援などの「技術サポート」を個別に提供していましたが、今後は、両者を組み合わせ、お客様の課題解決に寄与するソリューションの提供に努めます。

変化1：製品ビジネスからソリューション・ビジネスへ



第2の変化が「国内ビジネスからグローバルビジネスへの変化」です。国内市場は成長が鈍化しつつありますが、世界的に見れば半導体市場は拡大を続けています。当社グループは、これまで海外で最先端技術を開発し、いち早く国内市場に提案するというビジネスを主体としていました。今後は広く海外を相手にビジネスを展開することで、市場規模の拡大を自らの成長につなげていきます。

変化2：国内ビジネスからグローバルビジネスへ



そして第3の変化が「半導体市場から最終製品市場への変化」です。従来、最終製品に組み込まれる半導体デバイスの開発・製造は、最終製品メーカーから半導体などのデバイスメーカーに依頼されるのが一般的でした。近年では、機能強化や納期短縮を目的に、最終製品メーカーが自ら設計・開発するケースが増加しています。こうした市場構造の変化に対応するため、当社グループは従来の主要顧客であったデバイスメーカーだけでなく、最終製品メーカーに対してもソリューションを提供していきます。

変化3：半導体市場から最終製品市場へ



Q 中期経営計画の目標と達成へのビジョンをお聞かせください。

A 利益重視／キャッシュ・フロー重視の計画のもと、目標達成に向けて、確かな歩みを続けていきます。

中期経営計画では、売上規模の拡大はもちろん、利益重視／キャッシュ・フロー重視の事業構造の実現を目標にしています。こうした計画のもと、低収益事業からの撤退も含めた“選択と集中”を大胆に推進していく考えです。

このため、計画当初は一次的に売上、利益が低減することも織り込み済みですが、計画後半からは成長軌道を実現することで、最終年度となる2018年度には、売上高350～400億円、営業利益25～30億円の達成、またROE(株主資本利益率)は短期5%、中期8%超という目標を掲げています。

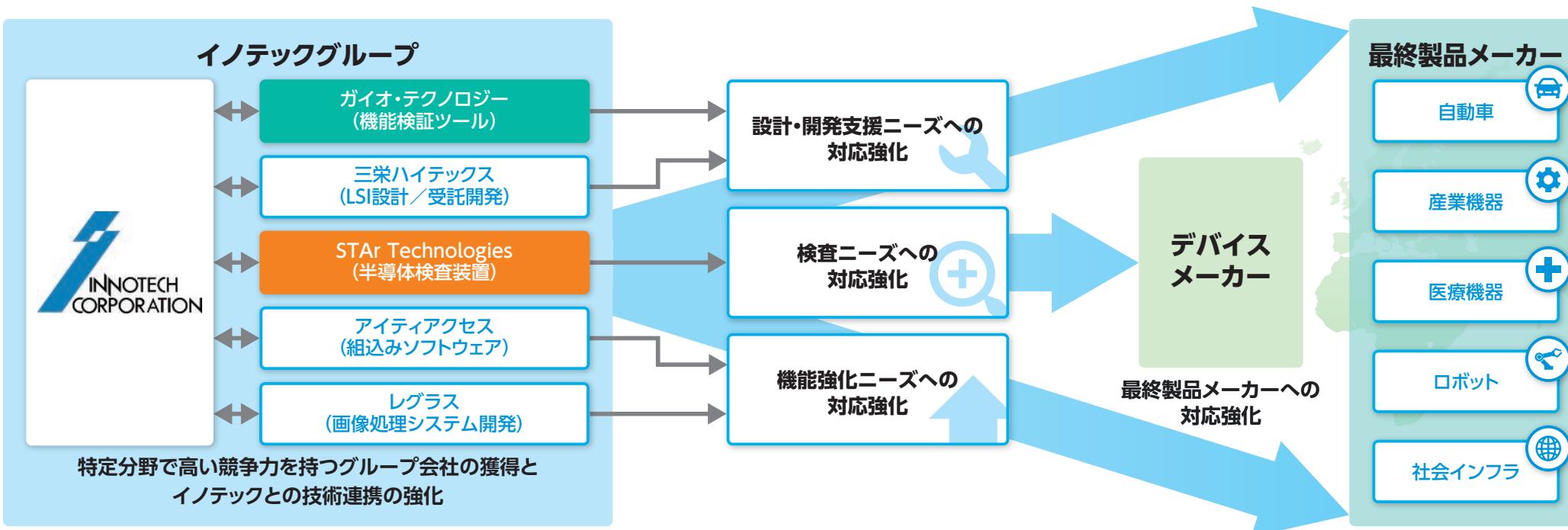
当社グループは、この中期経営計画の先に、売上高500億円、営業利益50億円という大きな目標を掲げ、その実現に向けてグループの総合力を高めていく所存です。当社グループの成長に、どうぞご期待ください。

中期経営計画の目標

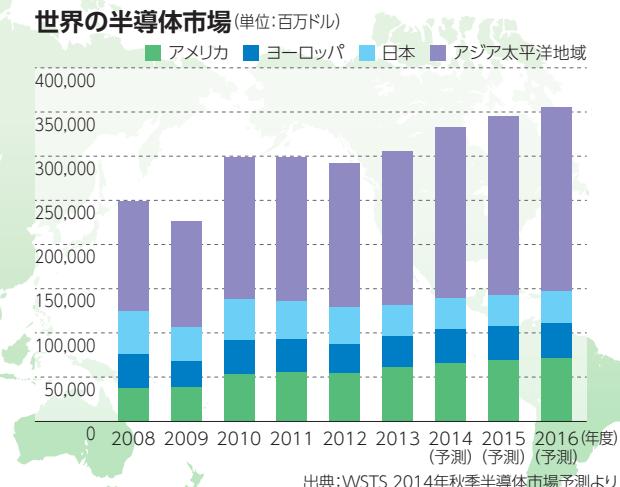
売上高	350～400億円(2018年度)
営業利益	25～30億円(2018年度)
ROE	短期5% 中期8%超を目指す

# イノテックが見据える未来

中期経営計画が導く、イノテックの新たなカタチ



特集ページでは、新たにスタートした中期経営計画のもと、イノテックグループがめざすビジネスモデルについて、具体的に説明していきます。



グローバルに拡大する半導体市場のなかでも成長分野にフォーカス

## 自ら培った技術力とグループ会社の強みを融合させ、高度化・多様化するニーズへの対応力を強化

イノテックグループは、ソリューション・ラインナップの強化に向けて、積極的なM&Aにより、特定分野において世界的な競争力を持つ企業を傘下に加えてきました。これらグループ会社の強みと、イノテックが自ら培ってきた技術・ノウハウを融合させることで、グループとしての総合力をさら

に高めていくことができます。中期経営計画では、こうしたグループシナジーの強化に向けて、ビジネスユニット制を導入しました。これは、イノテックの組織を機能検証ツール、半導体検査装置などのソリューションごとに再編し、対応するグループ会社との一体経営を実現したものです。こうした体制のもと、高度化・多様化するお客様ニーズに、より的確に、よりタイムリーに、よりきめ細かくお応えしていきます。

## IoT市場の成長を見据えて、より幅広く、よりグローバルな展開を

近年では、IoT (Internet of Things) と呼ばれるように、あらゆるモノがネットワークでつながる時代が到来しています。半導体デバイスは、こうした情報伝達の担い手として需要を拡大するとともに、高機能化、微細化がさらに進んでいます。当社グループは、IoT市場のなかでも自動車や産業機器

など、市場規模が大きく、高度な技術力を求められる成長分野に注力していきます。これまでの主要顧客であったデバイスメーカーはもちろん、最終製品メーカーにおける製品と半導体デバイスの一体開発ニーズにも対応していきます。さらに、グループ会社のネットワークを活かして、海外市場への展開も強化していきます。このように、成長市場へのソリューション提供を拡大することで、確かな成長を実現していきます。

取り組み1 | **機能検証ツール**

イノテック

× ガイオ・テクノロジー

# 車載システムの開発支援ソリューションで自動車メーカーへの提案活動を強化

イノテック(EDA 事業)

高品質な半導体設計用(EDA)ソフトウェアと国内屈指のサポート体制により車載半導体デバイスの開発を幅広く支援



ガイオ・テクノロジー

車載向け組み込みソフトウェアの機能検証ツールについてデファクト・スタンダードの評価を獲得



自動車メーカー

自動車の電子化に関する安全規格「ISO26262」に対応するため、自ら車載デバイスを開発できる体制づくりへ

エンジン制御を中心とした  
パワートレイン系に適用

インパネ制御

・メーター/ステアリング...

カー・マルチメディア

・カーナビ/ETC/オーディオ

エンジン制御

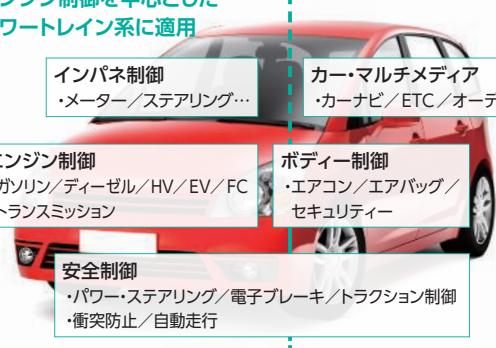
・ガソリン/ディーゼル/HV/ EV/ FC  
・トランスミッション

ボディー制御

・エアコン/エアバッグ/  
セキュリティ

安全制御

・パワー/ステアリング/電子ブレーキ/トラクション制御  
・衝突防止/自動走行



今や自動車は“走る電子機器”と呼ばれるように、あらゆる部品が電子化されています。2011年には、自動車の電子化に関する安全性を維持するための国際規格「ISO 26262」が制定され、自動車部品に搭載される半導体デバイスの開発には、より高いハードルが課されるようになりました。こうした背景のもと、安全性と開発効率を同時に追求するため、自動車メーカー自らによる車載デバイスの開発

ニーズが高まっています。

2014年1月に子会社化したガイオ・テクノロジーは、開発支援ツールの分野で高い技術力を有しており、なかでも車載向け組み込みソフトウェアの機能検証ツールについてはデファクト・スタンダードの地位を確立しています。ガイオのブランド力と、イノテックが培ってきたノウハウの融合により、自動車メーカーへのソリューション提供を強化しています。

取り組み2 | **半導体検査装置**

イノテック

× STAr Technologies

# STArの海外ネットワークを活かして検査ニーズの高まるアジアへの展開を強化

イノテック(半導体検査装置事業)

フラッシュメモリーの検査装置で高いシェアを獲得



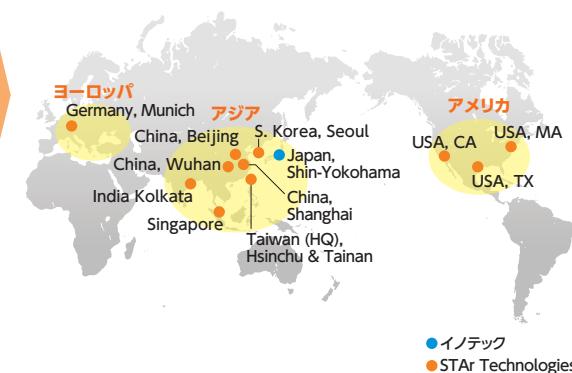
STAr Technologies

電力制御デバイス検査装置で優れた技術力を持つとともに、アジアを中心にグローバルなネットワークを構築



デバイスメーカー

アジアを中心に、グローバルに高まる半導体デバイスの検査ニーズ



半導体デバイスの検査には、デバイスの種類ごとに異なる検査装置が必要になります。2014年10月に子会社化したSTAr Technologiesは、電力制御デバイス用検査装置を中心に、高度な技術力を有しています。フラッシュメモリー用検査装置に強い当社とは高い相互補完性があり、両社の連携によってテスト・ソリューションのラインナップが大幅に強化されます。

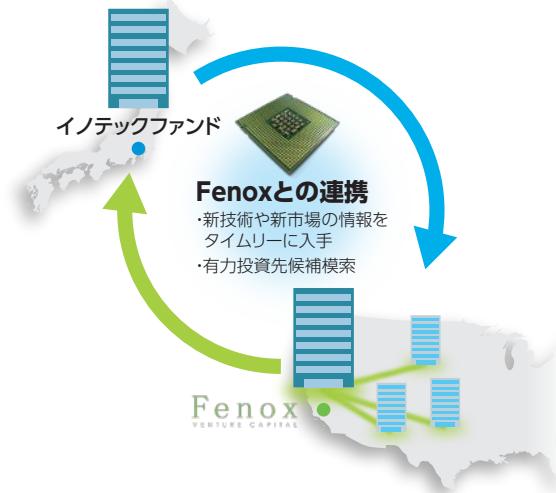
また、STArは本社を置く台湾をはじめ、シンガポールや韓国、中国など、半導体需要が高まるアジアを中心に、欧米も含めたグローバルな販売・サポートのネットワークを構築しています。当社グループの幅広いテスト・ソリューションを、STArのネットワークを活かして世界各地の市場に提案していくことで、グローバル市場での存在感を高めていきます。

## 新市場開拓・新事業創出を見据えて コーポレート・ベンチャー・キャピタルを設立

2015年1月、イノテックは有望ベンチャー企業への出資を行うコーポレート・ベンチャー・キャピタル「イノテックファンド」\*を、米国シリコンバレーに本社を置くFenox Venture Capitalと共同で設立しました。

これからはベンチャーキャピタルとして豊富な実績を持つFenoxのノウハウを活用しながら、今後の成長が期待されるベンチャー企業を発掘し、その成長を支援します。こうした取り組みを通じて、新市場や新技術の情報をタイムリーに入手し、新市場開拓と新事業創出の足掛かりとしていく考えです。

\* Fenox Innotech Venture Company VI, L.P.



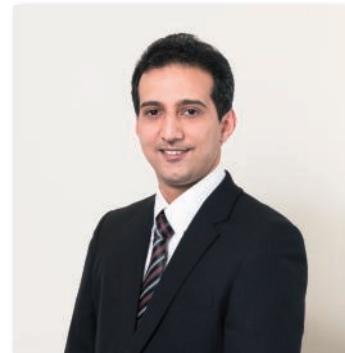
Voice

**投資先とのシナジーを重視し、  
ともに成長していけるパートナーを探索します。**

イノテックファンドの投資先の選定にあたっては、技術の有望性や成長性に加えて、イノテックグループの事業との親和性を重視しています。なぜなら、私たちが求めているのは単なる投資先ではなく、ビジョンや事業戦略を共有するパートナーとして、将来にわたってともに成長していける存在だからです。

そのためファンドの運用期間8年のうち、前半の4年間は投資先の選定に、後半の4年間はその育成と当社グループとのシナジー創出に充てる考えです。

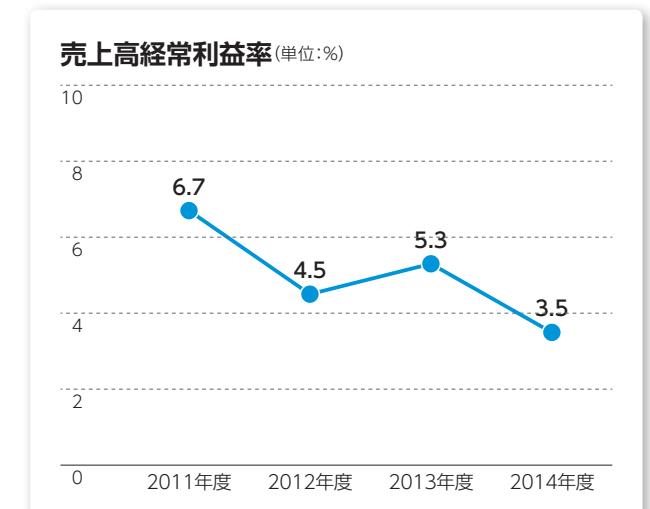
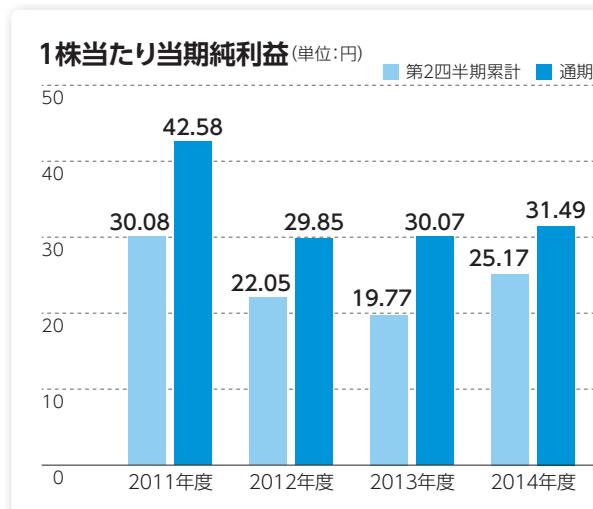
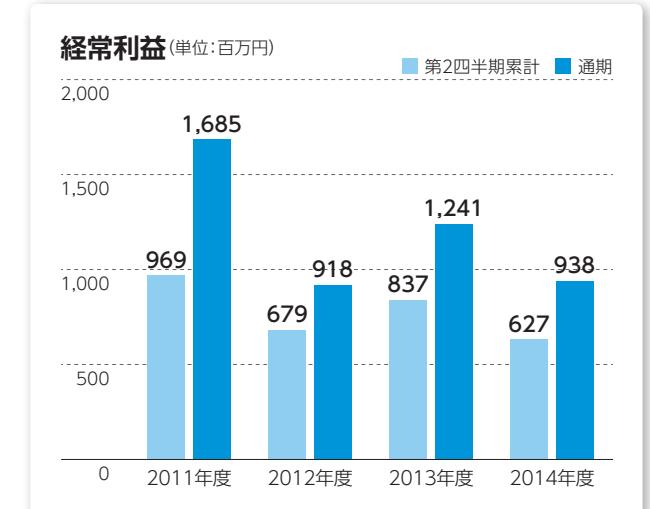
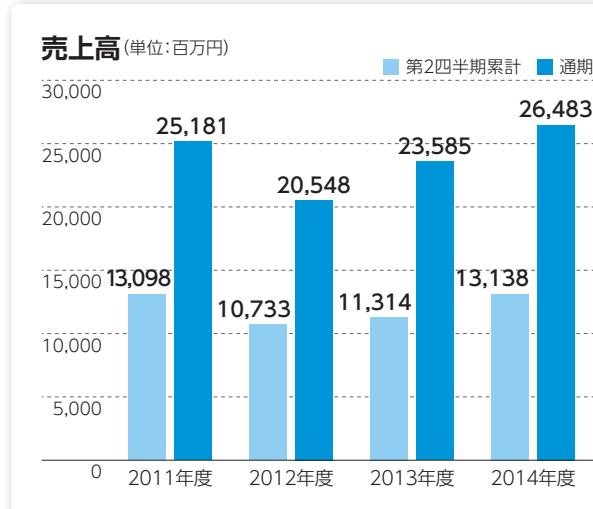
イノテックファンドによるグループ総合力のさらなる強化にご期待ください。



経営戦略室  
プリスウィ・バッタ

売上高 **264**億円(前期比12.3%増)

経常利益 **9**億円(前期比24.4%減)



イノテックグループは、近年の事業環境の変化に対応して  
 ビジネスモデルの転換を図るため、2014年7月1日付けで組織変更を実施しました。  
 これにともない、2014年度の第2四半期連結会計期間より、事業セグメントを  
 「設計開発ソリューション事業」「プロダクトソリューション事業」の2区分に変更しています。

## 設計開発ソリューション事業

Design and development solutions business



### ▶セグメントの概要

半導体設計用(EDA)ソフトウェアや組込み製品・ソフトウェア、  
 機能検証ツールなど設計・開発工程に係るソフトウェアや技術  
 サービスを販売する事業セグメントです。

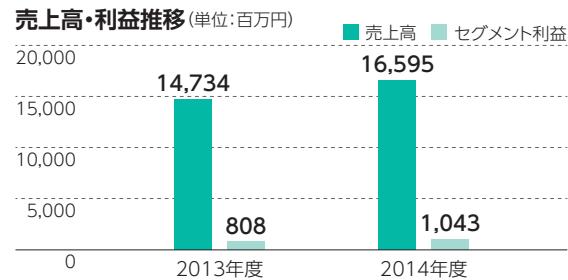
顧客へのソリューション提案力の強化に向けて、サービスの高  
 付加価値化とともに積極的な営業活動に注力しています。

### ▶当期の概況

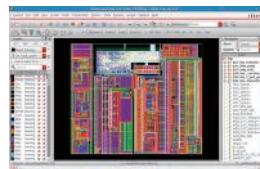
主力商品のEDAソフトウェアは自動車や電子部品向けを中心  
 に、引き続き堅調に推移しました。自社製組込みシステムも防  
 衛、インフラ向けを中心に好調でした。

三栄ハイテックスのLSI設計/受託開発ビジネスは既存顧客  
 の需要が回復し、ガイオ・テクノロジーの機能検証ツールおよび  
 エンジニアリング・サービスは、自動車メーカーを中心とした底  
 堅い需要に支えられ好調でした。

これらの結果、当事業の売上高は165億95百万円(前期比  
 12.6%増)、セグメント利益は10億43百万円(同29.2%増)とな  
 りました。



※当第2四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更したため、  
 2013年度については変更後の区分に基づき作成した実績を記載しております。  
 ※セグメント利益は、営業利益から各セグメントに配分していない全社費用などを  
 調整したものです。



EDAソフトウェア



CPUボード

### 売上高構成比推移



## プロダクトソリューション事業

Product solution business



### ▶セグメントの概要

半導体検査装置や半導体デバイスとともにボード/部品に搭  
 載される各種デバイス、ハードディスク・ドライブ(HDD)などの  
 ハードウェアなどで構成される事業セグメントです。

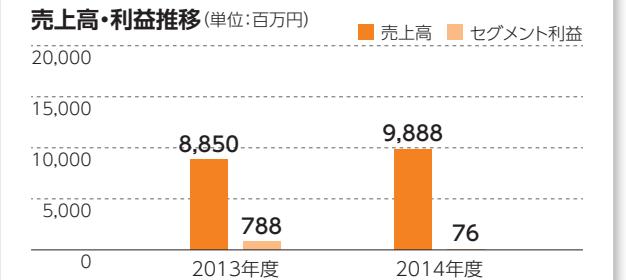
エンジニアリング力を活かして既存顧客との取引拡大に努め  
 るとともに、高付加価値製品の拡大によって利益率の向上を図  
 ります。

### ▶当期の概況

半導体検査装置は、2014年10月に子会社化した台湾の  
 STAr Technologiesが売上に貢献したものの、国内外向けと  
 もに需要が旺盛であった前期実績には及びませんでした。

HDDは、OA市場の受注回復などにより売上高が増加しまし  
 たが、一部新規取扱製品の在庫評価減を実施したため、セグメ  
 ントの収益性は低調となりました。

これらの結果、当事業の売上高は98億88百万円(前期比11.7%  
 増)、セグメント利益は76百万円(同90.4%減)となりました。



※当第2四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更したため、  
 2013年度については変更後の区分に基づき作成した実績を記載しております。  
 ※セグメント利益は、営業利益から各セグメントに配分していない全社費用などを  
 調整したものです。



HDD

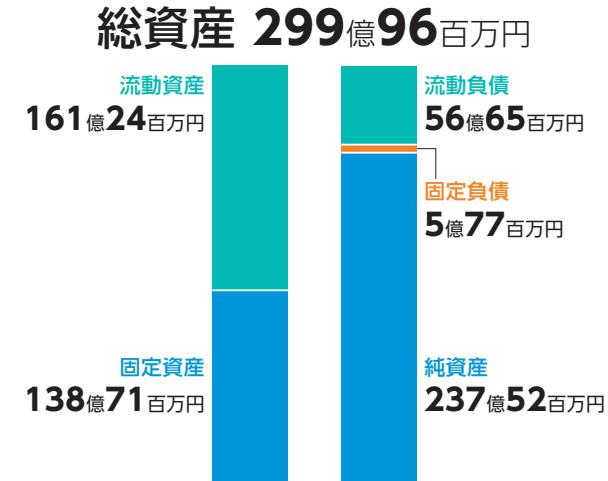


CMOSイメージセンサー向けテスター

## 連結財務諸表(要旨)

### ◆連結貸借対照表

(2015年3月31日現在)



#### ①連結貸借対照表のポイント

当期末の財政状態は、総資産が299億96百万円となり、前期末に比べ19億38百万円増加いたしました。これは、受取手形及び売掛金やのれんが増加したことなどによるものです。

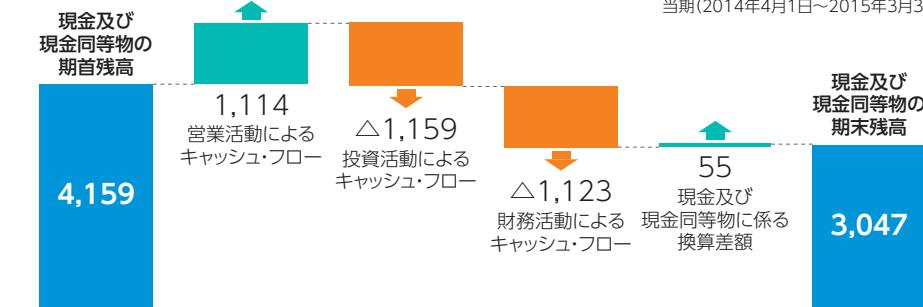
一方、負債は13億22百万円増加し、62億43百万円となりました。これは、買掛金や前受金が増加したことなどによるものです。

純資産は6億15百万円増加し、237億52百万円となりました。この結果、自己資本比率は77.5%と前期末に比べ3.5ポイント低下いたしました。

### ◆連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

当期(2014年4月1日~2015年3月31日)



#### ①連結キャッシュ・フロー計算書のポイント

当期末の現金及び現金同等物の残高は、30億47百万円となり、前期末に比べ11億12百万円減少しました。これは、営業活動によって11億14百万円を得たものの、投資活動によって11億59百万円、財務活動によって11億23百万円支出したためであります。

### ◆連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当期 2014年4月1日~ 2015年3月31日	前期 2013年4月1日~ 2014年3月31日
売上高	26,483	23,585
売上原価	20,134	17,463
売上総利益	6,348	6,121
販売費及び一般管理費	5,625	5,026
営業利益	722	1,095
営業外収益	572	523
営業外費用	357	377
経常利益	938	1,241
特別利益	8	88
特別損失	87	313
税金等調整前当期純利益	858	1,015
少数株主損益調整前当期純利益	544	532
当期純利益	553	527

#### ①連結損益計算書のポイント

連結業績は、前期比で増収となり、当期純利益は5億53百万円を計上いたしました。ガイオ・テクノロジーの業績が好調に推移したものの、イノテック、アイティアアクセスの業績は低迷し、営業利益・経常利益は減益となりました。

## 株式の状況(2015年3月31日現在)

### ◆株式の状況

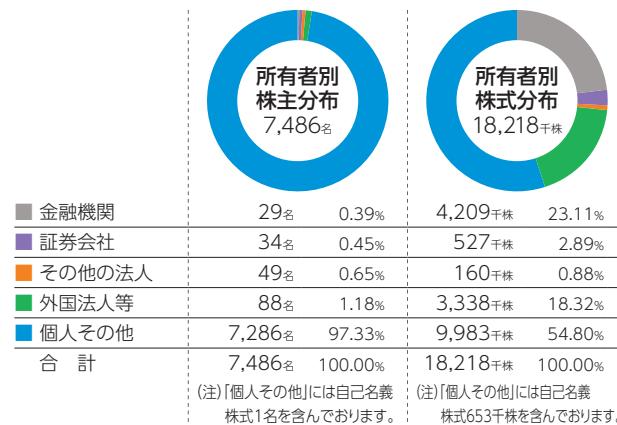
発行可能株式総数	36,000,000株
発行済株式の総数	18,218,901株
株主数	7,486名

### ◆大株主の状況

株主名	所有株式数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	949	5.41
CMBL S.A. RE MUTUAL FUNDS	636	3.62
CADENCE TECHNOLOGY LIMITED	456	2.60
株式会社みずほ銀行	420	2.39
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	417	2.38
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	356	2.03
イノテック社員持株会	330	1.88
株式会社三井住友銀行	320	1.82
第一生命保険株式会社	280	1.59
株式会社北陸銀行	265	1.51

(注)持株比率は自己株式653千株を控除して計算しております。

### ◆所有者別株主分布・所有者別株式分布



(注)本報告書の記載金額および数量は、表示単位未満の端数を切り捨てて表示しております。また、比率は表示単位未満の端数を四捨五入して表示しております。

## 会社概要(2015年3月31日現在)

### ◆会社概要

商号	イノテック株式会社 INNOTECH CORPORATION
設立	1987(昭和62)年1月5日
資本金	105億17百万円
従業員数	連結 995人 個別 211人
本社	横浜市港北区新横浜三丁目17番6号
大阪支社	大阪市中央区南本町二丁目6番12号
所在地	サンマリオンNBFタワー16階 物流センター 横浜市神奈川区三枚町33番 新横浜MTビル
台湾事務所	10F., No. 209, Sec. 1, Civic Blvd., Datong Dist., Taipei City 103, Taiwan
グループ企業	三栄ハイテックス株式会社 ガイオ・テクノロジー株式会社 アイティアアクセス株式会社 株式会社レグラス STAr Technologies, Inc. INNOTECH FRONTIER, Inc. INNO MICRO HONG KONG LTD. INNO MICRO (SHANGHAI) LTD.
主な取引銀行	みずほ銀行 三井住友銀行 北陸銀行 三井住友信託銀行 横浜銀行 三菱東京UFJ銀行

### ◆役員

(2015年3月31日現在)

代表取締役会長	澄田 誠	取締役(非常勤)	川島 良一
代表取締役社長	小野 敏彦	取締役(非常勤)	村瀬 光正
常務取締役	鍋木 祥介	常勤監査役	酒井 慎二
常務取締役	高橋 尚	常勤監査役	中島 俊雄
取締役	大塚 信行	監査役	内藤 潤
取締役	棚橋 祥紀	監査役	田中 伸男
取締役	間淵 義宏		

(注)取締役の村瀬光正は、社外取締役であります。  
常勤監査役の中島俊雄、監査役の内藤潤および田中伸男は、社外監査役であります。  
村瀬光正、中島俊雄、田中伸男は、独立役員として東京証券取引所に届け出ております。  
常勤監査役の酒井慎二は、2015年4月30日付で辞任により退任しております。

## ◆株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
	定時株主総会 毎年3月31日
	期末配当 毎年3月31日
基準日	中間配当 毎年9月30日
	そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して 定めた日
単元株式数	100株

### 【株式に関する住所変更などのお届出およびご照会について】

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。  
証券会社の口座のご利用がない株主様は、下記の電話照会先までご連絡ください。

株主名簿管理人  
および特別口座の  
口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人  
事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

〒168-0063

郵便物送付先 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

電話照会先 ☎ 0120-782-031

インターネット  
ホームページURL [http://www.smtb.jp/personal/agency/  
index.html](http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html)

### 【特別口座について】

株券電子化前(「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といえます。)を開設しております。特別口座についてのご照会および住所変更などのお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

当社のホームページに掲載する。ただし当社ホームページにて公告を行うことができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して公告する。  
<http://www.innotech.co.jp/>

上場証券取引所 東京証券取引所市場第一部

## IRサイトのご案内

[http://www.innotech.co.jp/ir/for\\_stockholder.html](http://www.innotech.co.jp/ir/for_stockholder.html)

イノテックは、株主の皆様とのコミュニケーションの一環として、IRサイトを開設しています。このサイトでは、業績・財務データや経営ビジョン・方針などを報告するとともに、「個人投資家の皆様へ」と題したコーナーを設け、当社のビジネスを分かりやすく説明しています。ぜひ、アクセスいただくとともに、ご意見・ご感想などを寄せいただければ幸いです。



# イノテック株式会社

本社：〒222-8580 横浜市港北区新横浜三丁目17番6号  
Tel: 045-474-9000 (代) Fax: 045-474-9089  
URL: <http://www.innotech.co.jp/>

UD  
FONT

見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています

VEGETABLE  
OIL INK